木巣立の家

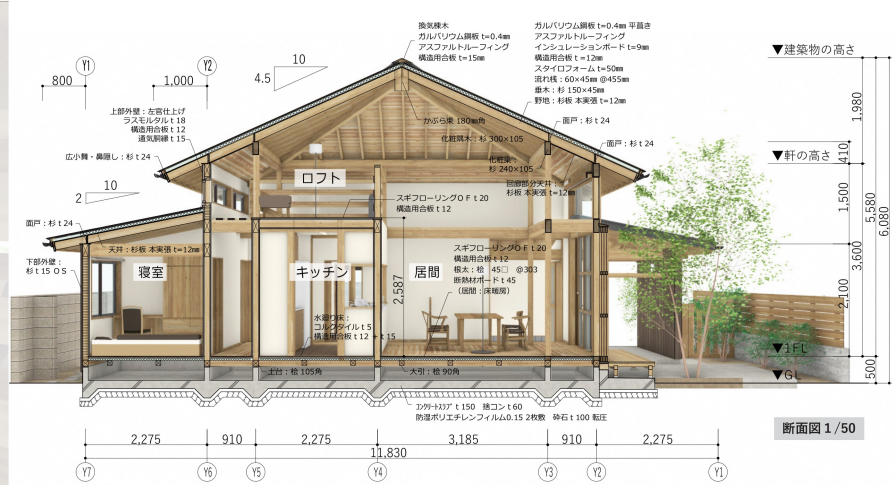
【巣のような家】
遺伝子、財産、文化、町、国。子供たちは我々と同じように、それらを継承して繋いでいく。子供たちは未来そのものであり、少子化は日本にとって最も重い問題である。今回の提案では「共働き子育て世帯の住宅」という重要な課題にこたえるために、【①夫婦が家事・育児を効率よくこなせる戦略的な間取り】と【②子育てを楽しめる空間】を備えた住宅を【③京都府内産木材を活かして作り上げる】ことを考えた。タイトルの「木巣立」は、「木立」「巣立ち」「子育て」をかけた造語である。巣のような素朴さと優しさを持つ、長く愛される家を目指した。

【回廊】
子育て中の親は彼我の体力差に圧倒される。子供の膨大なエネルギーを受け止め、親のために子供の体力を削ぐ装置として田の字型の回廊を計画した。多様な動線が描けるプランになっている。

【京都府内産木材、杉】
構造材、仕上材の多くで京都府内産の杉を使う。優しい感触と香りが子供の五感に寄り添う。杉は赤と白の色味のギャップがデザイン上の難点だが、逆にそれを利用し、床材の杉は木目が回廊の進行方向に沿う形で並ぶデザインとした。

【木に包まれるような空間】
屋根は寄棟とし、天井には円を描くように杉板を張っている。中心性の高い空間が、包まれているような体感を生む。

【合理的な室配置】
裏口の周辺に水廻りを集約し、それらを連動して効率よく使える配置とした。キッチンと畳は中央にあり、作業をしながら家全体が見渡せる。



断面図 1/50

敷地面積：205.06 ㎡（62.02 坪）
延床面積：106.20 ㎡（32.12 坪）
1 階　：93.78 ㎡
ロフト　：12.42 ㎡
建築面積：100.50 ㎡（33.16 坪）

中央の寄棟の屋根は、回廊の内・外両側の梁で支持し、内側の六間四方の空間を無柱とする。外周部は梁の段差に垂木をかけ屋根をかける。

南立面図 1/80

東立面図 1/80

平面図 1/50

南西側外観

北東側外観

居間

回廊

ロフト

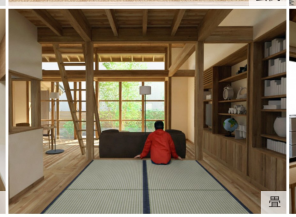
外観

玄関

中庭

裏口

キッチン

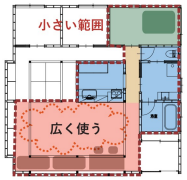


畳

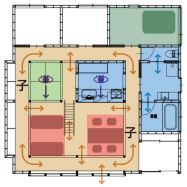
寝室

子供部屋

【長期の使用シミュレーション】一般的には高校卒業までの 18 年間を「子育て」と言うが、その後も親の人生は続き、親子の関係も続く。長期間に渡って使いこなすことを考えた。

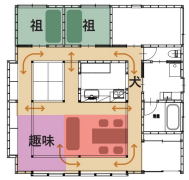


①子供が乳幼児の間は目が離せない。小さい範囲で生活を完結させつつ、赤ん坊の成長のために、居間を広くして使う。ロフトやキッチンなど危ない場所は入れないように閉鎖する。

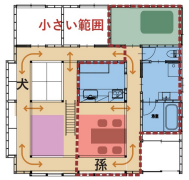


②子供が年少児になり行動範囲が広がったら、回廊やロフトを開放して走り回ってもらう。親は中央のキッチンや畳で作業をしながらそれを見守る。水廻りの隣接はトイレの練習等に役立つ。

③子供が思春期に入ったら個室をあてがう。反抗期であまり話したくない時期には、居間を通らずに個室に入れるが、様子はわかる。本当に顔も見たくない時は平屋なので窓から出入りできる。



④子供が巣立ち夫婦の二人暮らしになる。リビングとダイニングを兼用に変え片方を趣味に使う。犬を飼えば犬が走り回る。祖父母を受け入れる場合は子供の物品をロフトに上げ、子供部屋を使う。



⑤夫婦が高齢になってくる。この住宅は平屋のため、段差のリスクも少なく、小さく生活を継続できる。水廻りの隣接は高齢化にも有利に働く。子供が孫を連れてきて、犬と孫が走り回る。